

2005 年上半期ドイツ自転車市況

ZIV(ドイツ二輪産業協会)発表による 2005 年上半期の自転車市況は、国内出荷において前年同期比を若干上回る 295 万台にとどまった。理由として、年間を通して自転車販売の最も多い 4、6 月の天候不順、景気の後退による消費意欲の減退があげられている。

国内生産割合は去年の 50%から 51%へ微増している。また、輸入国別の台数では、台湾の 300,000 台、ポーランドの 250,000 台、リトアニアの 210,000 台となり、昨年まで上位にあったベトナムは、今年 7 月 15 日から実施した自転車に対する AD 税賦課の影響で順位を落とした。AD 税は Always 社(Strongman)には 15.8%、その他のベトナム自転車企業には 34.5%である。

輸出台数は、前年同期比 35%減の 260,000 台であった。ZIV では、輸出が減少した影響で在庫がだぶつき気味となり、景気回復の兆しも見えないことなどから、2005 年の国内出荷台数は前年度の 470 万台を 15 万台程下回る 455 万台程度と予測している。2006 年は原油高の影響で原材料の仕入コストや輸送コストなどが高騰し、自転車部品の輸入価格事態が上昇しているため、自転車の製造業者は価格転嫁に踏み切る可能性が非常に高いとしている。

(平成 17 年 10 月 7 日 デュッセルドルフ事務所)